

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 6 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520456

研究課題名（和文） 外国人と日本人の相互理解における認知的・情意的側面に関する実証的研究

研究課題名（英文） An empirical study on some cognitive and emotive aspects of mutual understanding between foreigners and Japanese

研究代表者

安 龍洙（AN YONGSU）

茨城大学・留学生センター・教授

研究者番号：80361286

研究成果の概要（和文）：本研究では、PAC分析法を用いて、外国人の対日観及び日本人の外国観を探り、異文化理解の諸問題について実証的な分析を行った。4年間の研究期間中、雑誌論文15件（うち1件は国際会議論文）、口頭発表4件の研究成果を上げた。一連の研究から、国籍の異なる外国人の対日観において共通点が多く存在しており、対日イメージについてかなり複雑に捉えていることが明らかにされた。また、日本人の外国人観においてもいくつか興味深い共通点が見られた。

研究成果の概要（英文）：Employing Personal Attitude Construct Analysis (PAC Analysis), we investigated foreigners' views on Japan and Japanese views on foreign countries. During the four years of the study, we published 15 journal articles including one international conference proceeding and presented four papers at different local conferences. Through these published articles and papers, we found that people of different nationalities hold similar views on Japan in many respects. At the same time, we revealed that these people present quite complicated images of Japan. We also found many interesting commonalities among the views on foreign countries held by Japanese people.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,300,000円	390,000円	1,690,000円
2009年度	900,000円	270,000円	1,170,000円
2010年度	1000,000円	300,000円	1300,000円
2011年度	300,000円	90,000円	390,000円
総計	3,500,000円	1,050,000円	4,550,000円

研究分野：日本語教育

科研費の分科・細目：日本語教育

キーワード：外国人の対日観、日本人の外国観、情意的・認知的側面、異文化理解、個人別態度構造分析法 (PAC 分析法)

### 1. 研究開始当初の背景

近年、日本においては外国人が年々増えており、今後も増加することが予想される。現在、留学生が帰国せず日本の会社などに就職したり、日本の会社が外国から外国人労働者を雇用したりと、外国人が日本社会の一員として生活しているケースが増えつつある。

日本の大学などで学ぶ留学生の生活問題についても大学の国際化が推進される中、多くの大学で留学生の支援・受け入れ環境の充実を図るためにアンケート調査が実施され、いずれにおいても厳しい実態が報告されている。そのため、このような外国人の日本社会への適応問題に関する具体的な支援策が急務となりつつある。

多文化共生社会の望ましい姿とは、外国の多くの有能な人材が日本に集まり、日本人、外国人間の相互理解を深め、生活のパートナーとしてともに地域社会を作っていくことであると考え。現在、各自治体や教育機関などで外国人や留学生に関する実態調査が盛んに行われているものの、殆どの場合がアンケート調査を用いた量的データによるものであるため、外国人一人ひとりがどのように日本文化を理解し受容しているのかといった問題についての検討はあまりなされていない。そのため、異文化間教育の分野においては、本研究のような対象者個人個人の対日観・外国人観の構造を解明し比較する、質的な研究が喫緊の課題である。

そこで本研究で日本に居住する外国人の対日観を探るとともに、日本人の外国人観についても調査し、日本における「多文化共生社会」の実態とあり方について検討した。

### 2. 研究の目的

本研究は外国人と日本人が、お互いをどのように理解し評価しているのかについて認知的・情意的観点から探りそれぞれの意識の奥深くある構造を明らかにし、「多文化共生社会」における「外国人と日本人」の相互理解の実態を明らかにすることを目的とする。

### 3. 研究の方法

本研究で採用する PAC 分析法とは、本申請での研究分担者内藤が開発したもので、1) 当該テーマに関する自由連想、2) 連想項目間の類似度距離行列によるクラスター分析、3) 被験者によるクラスター構造の解釈、を通じて個人別に態度構造を分析する方法である。PAC 分析法では、対象者が自由に自発的に項目を作り出し、それに基づいて自らが反応するため、対象者の自発性・自律性が最大限尊重され、比較的簡単な手続きで個々の対象者の内面世界について認知的・情意的観点から捉えることができる。対象者 1 名ごとに詳細な質的分析が可能な技法であることから、多人数を確保することが困難な縦断的研究や多様な個人を対象とする質的研究において、威力を発揮する。現在では開発者内藤の属する心理学・社会心理学分野以外でも広く利用されるようになってきている。PAC 分析法を用いた先行研究の結果から、質問紙法では捉えきれない、対象者の意識の奥深くにある構造が明らかにできることがわかった。

#### 4. 研究成果

外国人の対日観の研究としては、韓国人の対日観の研究[主な発表論文等(8), (14), (15)]、中国人の対日観の研究(主な発表論文等[(11)])、ベトナム人の対日観の研究[主な発表論文等(7)]、中国少数民族の対日観の研究(主な発表論文等[1])、マレーシア人の対日観の研究(主な発表論文等[3])、台湾人の対日観の研究[主な発表論文等(12)]、Non-native日本語教師の対日観[主な発表論文等(10), (13)]などが挙げられる。一連の研究から、国籍の異なる外国人の対日観において共通点が多く存在しており、対日イメージについては単に好きか嫌いかという短絡的な見方をせずかなり複雑に捉えていることが明らかにされた。また、日本人の外国人観の研究[主な発表論文等(2), (4), (5), (6), (9)]についても、一連の研究結果から、いくつか興味深い共通点が見られた。

しかし、客観的に相互の態度構造を捉えるためには、「外国人の対日観」と「日本人の外国観」という大きな括りで探るのではなく、「日本人自身による自国観」と「外国人による対日観」のように、他者イメージと自己イメージを同時に探る必要がある。日本人についても自国観の調査も含めて、アジア観と欧米観の比較、中国観と韓国観の比較、のように個別の地域や国に対する態度構造の解明も必要となってくる。今後は、被験者の地域、外国在住・長期滞在の有無、外国人との接触度合の有無、年齢、職業などの要因を考慮して被験者を選定する必要があると考える。

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 15 件)

(1) 安龍洙 (2012) 「外国人の対日観に関する研究-中国の少数民族出身者の場合-」 『茨城

大学留学生センター紀要 10』1-14, 2012, 査読有

(2) 安龍洙・池田庸子 「日本人の外国・外国人観に関する研究-茨城県在住の主婦の場合-」 『茨城大学留学生センター紀要 10』15-28, 2012, 査読有

(3) 八若壽美子 「マレーシア人留学生の日本・日本人イメージに関する事例研究」 『茨城大学留学生センター紀要 10』43-58, 2012, 査読有

(4) 内藤哲雄 「中国と中国人の人間関係のスキーマの獲得と発達: PAC 分析による構造と形成要因の検討」 『人文科学論集[人間情報学科編]45』55-71, 2011 (信州大学人文学部), 査読無

(5) 八若壽美子 「日本人学生の外国・外国人イメージに関する事例研究-留学生との接触機会が多い学生の場合-」 『茨城大学留学生センター紀要 9』33-46, 2011, 査読有

(6) 池田庸子 「日本人学生の異文化観に関する事例研究 (2) -海外留学経験による異文化観の変容-」 『留学生センター紀要第 9』47-56, 2011, 査読有

(7) 安龍洙 「外国人の対日観に関する研究-ベトナム人留学生の場合-」 『茨城大学留学生センター紀要 9』1-18, 2011, 査読有

(8) 安龍洙 「外国人の対日観に関する研究: 日本滞在歴の長い韓国人の場合」 『ユーラシア研究 7(4)-19』373-392, 2010, 査読有

(9) 池田庸子 「日本人学生の異文化観に関する事例研究-海外留学予定者の場合-」 『留学生センター紀要 8』43-53, 2010, 査読有

(10) 八若壽美子・藤原智栄美 「Non-native日本語教師の対日イメージ-個人別態度構造分析法 (PAC 分析) による事例研究-」 『茨城大学留学生センター紀要 8』19-42, 2010, 査読有

(11) 安龍洙 「外国人の対日観に関する研究-中国人短期留学生の場合-」 『茨城大学留

生センター紀要 8』1-17, 2010, 査読有

(12) 藤原智栄美 「台湾人日本語話者の対日観に関する一考察-個人別態度構造分析法 (PAC 分析) による事例研究」『日本学と台湾学 8』

1-23, 2009 (静宜大學日本語文學系), 査読有

(13) 藤原智栄美・八若壽美子 「アジア地域で教える Non-native 日本語教師の対日イメージ-個人別態度構造分析法 (PAC 分析) を用いた事例研究-」『2009 年度「台湾日本語教育研究」国際学術シンポジウム-日本語教育のジャンル

の広がり求めて-会議論文集-』

35-46, 2009 (台湾日本語教育学会・静宜大學), 査読有

(14) 安龍洙 「外国人の対日観に関する研究-韓国人短期留学生の場合-」『茨城大学留学生センター紀要 7』1-13, 2009, 査読有

(15) 安龍洙 「韓国人の対日観に関する一考察-個人別態度構造分析法 (PAC 分析法) を用いて-」『ユーラシア研究 5(3)-11』107-125, 2008, 査読有

[学会発表] (計 4 件)

(1) 八若壽美子・池田庸子 「日本人日本語教師の外国・外国人イメージに関する事例研究」第 43 回日本言語文化学会研究会, 2011 年 12 月 3 日, お茶の水女子大学

(2) 内藤哲雄 「中国のイメージの PAC 分析」日本社会心理学会第 51 回大会, 2010 年 9 月 17 日~18 日, 広島大学

(3) 藤原智栄美・八若壽美子 「アジア地域で教える Non-native 日本語教師の対日観に関する事例研究-個人別態度構造分析法 (PAC 分析) を用いて-」台湾日本語教育研究国際学術シンポジウム, 2009 年 12 月 6 日, (台湾) 静宜大学

(4) 内藤哲雄 「中国人の人間関係の PAC 分析」日本心理学会第 73 回大会, 2009 年 8 月 26~28 日, 立命館大学

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

安 龍洙 (AN YONGSU)

茨城大学 留学生センター・教授

研究者番号: 80361286

### (3) 連携研究者

八若 壽美子 (HACHIWAKA SUMIKO)

茨城大学 留学生センター・教授

研究者番号: 20334013

池田 庸子 (IKEDA YOKO)

茨城大学 留学生センター・教授

研究者番号: 30288865

藤原 智栄美 (FUJIWARA CHIEMI)

茨城大学 留学生センター・准教授

研究者番号: 40510201

内藤 哲雄 (NAITO TETSUO)

福島学院大学福祉学部・教授

研究者番号: 20172249